

富岡小学校いじめ防止基本方針

平成26年2月15日策定(令和6年3月21日改正)

1 いじめ防止に向けた学校の考え方

(1)いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

【いじめ防止対策推進法 第2条による】

(2)いじめ防止等に向けての基本理念

「子どもは人と人との関わり合いの中で、自己の特性や可能性を認識し、また、他者の長所を発見する。互いを認め合い、誰もが安心して生活できる場であれば、子どもは自己実現を目指して生活できる。しかし、いじめはその健やかな成長への阻害要因となるだけでなく、将来に向けた希望を失わせるなど個人の人生に長く深刻な影響を与えるものである」という認識のもと基本理念を考えた。

(3)いじめ防止等に向けた富岡小学校基本理念

①未然防止

・規範意識を育てる。・学力を保证する。・自尊感情・自己有用感を育てる。・適切な人間関係を築く。

②早期発見・早期対応

・アンケートや教育相談を充実させる。・教職員のいじめに対する資質の向上を図る。
・的確な対応のための体制を築く。

③適切な措置・処置

・「学校いじめ防止対策委員会」を月1回以上開く。
・当該児童や保護者を支援する。・関係児童や保護者への指導や支援と警察等関連機関との連携を図る。

④取組の検証

・いじめ防止に関わる年間計画の作成・実施・検証・修正をする。・校内研修を企画し実施する。

(4)「富岡小学校いじめ防止基本方針」策定のねらい

・学校の中だけではなく、保護者や地域・関係機関と連携して、いじめの早期発見や防止に取り組んでいく。
・児童がいじめを受けていたり、いじめの疑いが感じられたりしたら、直ちに「富岡小学校いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に迅速かつ適切に対応することを目的とする。

2「学校いじめ防止対策委員会」の設置

○常設委員会

構成員 : 全職員

運営 : 月一回の職員会議の内で行う。会議録をとり保管する。

内容 : 未然防止、早期発見、事案対処、情報の共有、いじめ認知案件の進捗確認・検証、職員の意識の向上

○臨時委員会

- 構成員：管理職、児童支援専任、養護教諭、いじめの当該・関係児童学年担任、
かかわりのある教師、当該児童と親しい教師など
- 運営：いじめの認知後や疑いのある段階で直ちに設置する。会議録をとり保管する。
- 内容：対策について話し合う。事実確認、当該児童の安全確保・心のケア、
関係児童への指導、両保護者への連絡、クラス及び学年への全体指導、
今後の見守りなどについて確認や役割分担を行う。

＊常設・臨時ともに必要に応じて心理や福祉の専門家の参加を求める。

＊校長等の責任者は、学校として組織的に対応方針を決定する。

3 いじめの未然防止、早期発見、事案対処

(1) いじめの未然防止の取組

「いじめは、どの集団にも、どの学校にも、どの子にも起こる可能性がある最も身近で深刻な人権侵害案件である」
【横浜市いじめ防止基本方針より】

- ① 人権教育や道徳で「いじめ」にかかわる授業を行う。
- ② 学校のきまりや基本的な生活のルールに基づいて生活し、集団で生活するために気を付けなければいけないことを考え守れるよう徹底していく。
- ③ 「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用して、集団の一員としての自覚や自信を育み、より互いを認め合える人間関係や学級風土をつくる。
- ④ 道徳等で児童自らがいじめを自分たちの問題として考え主体的に話し合う機会をつくり、話し合いの支援をする。
- ⑤ 教職員が研修を行い、児童のいじめの早期発見や職員の言動で児童を傷つけたり、「いじめ」を助長したりすることが無いようにする。
- ⑥ インターネットを通じた「いじめ」が起こらないように、メールや SNS などを利用する上での約束を児童や保護者に向けて発信したり授業を行ったりする。
- ⑦ 児童が主体的に学べる授業や楽しくわかりやすい授業を行い、自己存在感や充実感を感じられるようにし、安心して落ち着ける居場所づくりをする。
- ⑧ 授業や行事の中で、すべての児童が活躍できる場面を設定し、他者から認められる経験を持たせることで、自尊感情を高め自己有用感を育てる。

(2) いじめの早期発見

いじめは、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることを認識し、些細な兆候であってもいじめの疑いをもって、いじめを適切に認知するため、早期発見の取組みを行う。

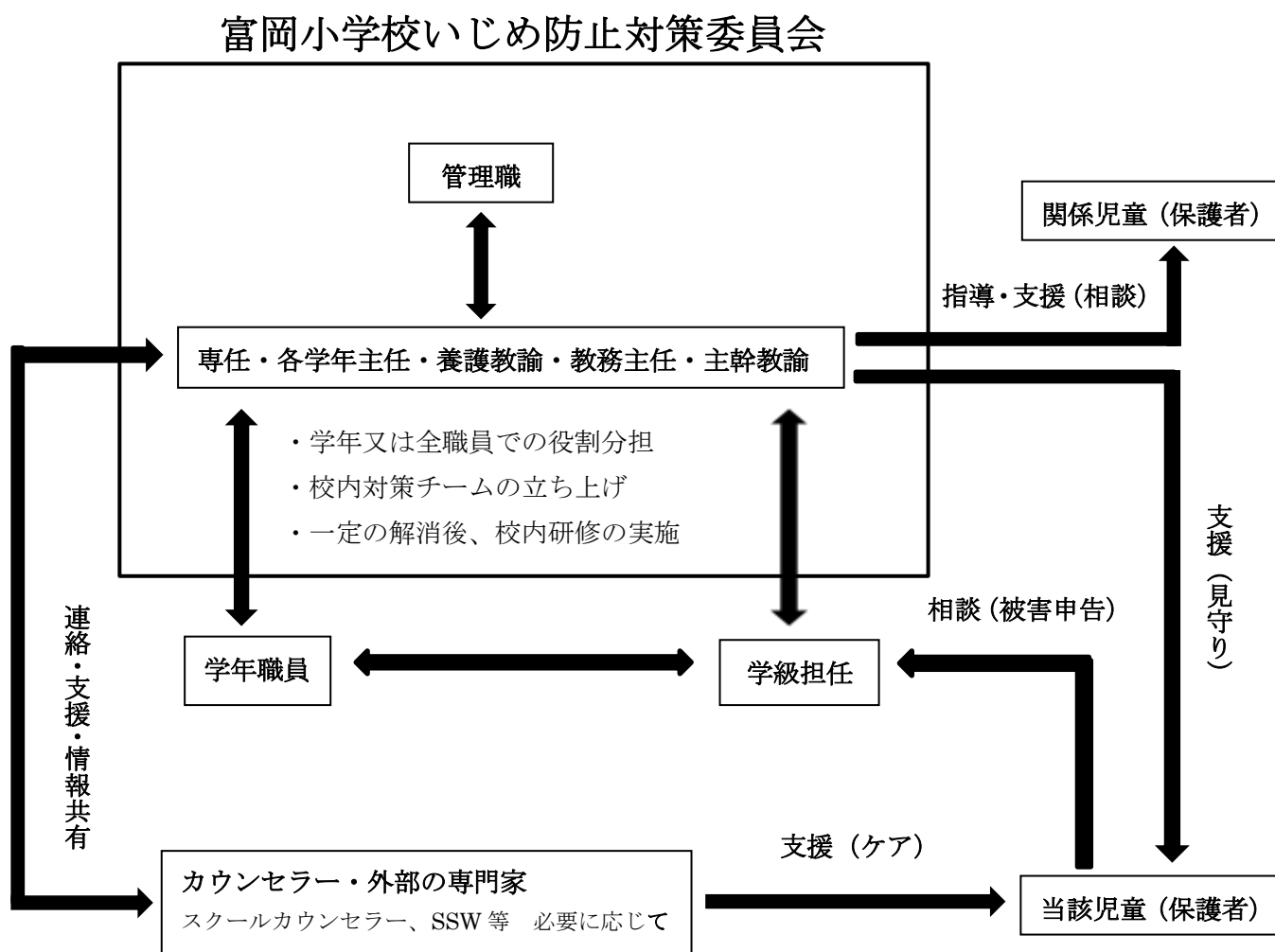
- ① 「学校生活アンケート」や「いじめ解決一斉キャンペーン」などのアンケートから、早期に発見し対応する。
- ② 登下校や休み時間、給食、清掃の様子を観察し、気になる事や様子があった場合は面談等をして早期に対応していく。
- ③ 問題行動の予防と対策のため Y-P アセスメントを行い、学級の風土づくりにいかしていく。
- ④ 学年研究会や富岡小学校いじめ防止対策委員会などで、教職員間の情報交換をする。
- ⑤ 保護者との定期的な面談を実施する。
- ⑥ あいさつ運動などを通して、児童間や職員児童間の絆づくりを進めていく。

(3) いじめに対する措置

いじめの疑いがあった段階で、情報共有と組織的対応、支援・指導を行う。教職員は、些細な兆候や懸念や児童からの訴えを抱え込んだり、対応不要であると個人で判断したりせずに、直ちに「学校いじめ防止対策委員会」に報告・相談する。学校全体で組織的にいじめに対応していく。

- ① スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー(SSW)といった、心理や福祉の専門家と連携する。
- ② いじめの疑いがあった段階で、「富岡小学校いじめ防止対策委員会」を速やかに開催し、事実把握や情報共有をする。
 - ・指導の方針を決定する。
 - ・いつ、どこで、誰が、誰と、何を、どのようにするかを決定し記録しておく。
 - ・職員が共有できるようにしておき記録は厳重に保管しておく。
- ③ 今後の対応や二次的なトラブルを予測して対応をする。
- ④ 児童が相談できる窓口を作る。
- ⑤ いじめを許さない児童間の風土づくりをする。
- ⑥ 定期的に複数の教員がチェックし、情報交換や報告をする。

〈対応図〉



(4) いじめの解消

《いじめ解消の要件》 少なくとも2つの要件が満たされている必要がある。

- ・いじめの行為が少なくとも3か月(目安)止んでいること
- ・いじめを受けた児童が心身の苦痛を感じていないこと

- ① いじめの解消は、「学校いじめ防止対策委員会」で確認する。
- ② いじめが解消されていないときには、いじめを受けた児童を徹底的に守り通し、その安全安心を保障する。
- ③ 「解消している」状態とは、あくまで一つの段階にすぎず、「解消している」状態に至った場合でもいじめが再発する可能性が充分にあることを踏まえ、日常的な観察や聴き取りを注意深く続ける。

4 教職員等への研修

- ① 実態を踏まえた話し合いや検討会を行う。
- ② 児童への定期的なアンケートをもとに、指導のふりかえりや目標等の改善をしていく。
- ③ 職員が定期的にいじめという問題に対する認識や取組姿勢、日頃の取組について自己点検を行い、いじめを見抜く人権感覚を育てる。
- ④ 話し合いの中から共通の認識をもち、学校全体でチームとして取り組む体制をつくる。

5 学校運営協議会等の活用

・「学校運営協議会」や「中学校区学校・家庭・地域連携事業」等を活用し、いじめの問題や学校が抱える課題を保護者や地域と共有し、連携・協働して取り組む。

6 年間計画

月	取 組 内 容	
4月	年間計画作成 引き継ぎ事項確認 いじめの定義確認 いじめ防止対策委員会 学校カウンセラー紹介 教育相談案内発行	懇談会、学校説明会等で基本方針説明 地域巡り
5月	いじめ防止対策委員会 児童理解研修 いじめ早期発見のための記名式アンケート 教育相談	学校運営協議会
6月	いじめ防止対策委員会 Y-P アセスメント 教育相談 校内子ども会議	学・家・地連で基本方針の説明
7月	いじめ防止対策委員会 横浜こども会議 学校生活アンケート 教育相談	保護者三者面談
8月	いじめ防止対策委員会 専任教諭夏季研修に基づく校内研修(自殺防止等)	
9月	いじめ防止対策委員会	
10月	いじめ防止対策委員会	
11月	いじめ防止対策委員会 Y-P アセスメント 教育相談	
12月	いじめ防止対策委員会 人権週間 いじめ防止一斉キャンペーン 教育相談	保護者面談
1月	いじめ防止対策委員会 学校生活アンケート 教育相談	
2月	いじめ防止対策委員会	学校運営協議会
3月	いじめ防止対策委員会 年間の振り返り 新年度への引き継ぎ	

*いじめ(「疑い」を含む)を察知した場合には、直ちに「いじめ防止対策委員会」を開く。

7 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

いじめにより富岡小学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
【いじめ防止対策推進法第28条1項第1号】

「生命、心身又は財産に重大な被害」

- ・児童が自殺を企図した場合
 - ・身体に重大な障害を負った場合
 - ・金品等に重大な被害を被った場合
 - ・精神性の疾患を発症した場合
- をさす。

いじめにより富岡小学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき
【いじめ防止対策推進法第28条1項第2号】

「相当の期間」とは、年間30日を目安にする。

ただし、日数だけでなく、状況や状態等 個々のケースは十分把握する。

(2) 発生の報告

- ・富岡小学校は、重大事態と思われる案件が発生した場合(疑いを含む)直ちに横浜市教育委員会南部学校教育事務所に報告する。

(3) 重大事態の調査・報告

- ・「学校いじめ防止対策委員会」を中核として直ちに対処するとともに、再発防止も視点に置いた「調査」を実施する。調査結果を教育委員会に報告する。

(4) 児童や保護者への報告

- ・いじめを受けた児童や保護者に対して、調査によって明らかになった事実関係を必ず報告する。

8 いじめ防止対策の点検・見直し

- ・富岡小学校は、いじめに対応する組織体制や対応の流れについて、少なくとも年1回3月に検討を行う。必要があると認められる際には、「富岡小学校いじめ防止基本方針」を改訂し、改めて公表する。